

3班 シュルレアリスム



シュルレアリスムとは、20世紀の芸術界を代表する思想運動です。人間の無意識に芸術の根源を見出し、現実の奥に隠された「現実を超える現実」を表現して、真の自由を獲得するという運動です。日本語では「超現実主義」と訳されます。

1体目のデザインは、手にはめる手袋をデペイズマンの技法を参考にして、トップスとスカートのセットアップで表現しました。

2体目のデザインは、自然を人間と一体化させることで、異次元・不思議・違和感を表現しました。



3-1



できるだけ素肌に近づけたかったので薄くて柔らかいレーヨン生地を使い肌になじみやすい細身のパンツ（レギンス）を作りました。トップスが短めなのでハイウエストで丈感を長めにして、自然に足が長く見えるよう、バランスを考えて制作しました。

3-2



直接染料と分散染料をもちいて
鮮やかに染めました。

マフラーと手袋がセットアップに
馴染むように色調節しました。



柄染めにより、手のひらのしわを表現しています。柄染めに使用した布は透けやすい素材だったため、裏地を付けて透けないようにしました。また、指先の形状を一目で分かるようにするため、カーブと指三本の差が出るように長さにも気を配りました。



アクセサリーで、彼岸花を小さく表現することに苦労しました。物が小さいので布がボロボロになってしまったり、花に見えなかったりしたので、針金を使用してきれいに彼岸花を表現しました。染色は、普通の赤ではなく、柔らかい赤を使用しました。



伸びる素材だったのでぴったりした感じで体にフィットするように作りました。自然な感じが良かったので、緑色にしました。丈感はショート丈にし、お腹が少し見えるくらいにしました。首は少しハイネックにして、背中にファスナーを付けました。

3-6



トップスの半袖で親指、長袖で小指を表現しました。柄が切り替わらないようにドルマンスリーブにしました。また、柄の切り替わり線によって手のひらのしわを表現し、指先の丸みを表現するために、袖口が丸くなるようにゴム糸で縫製しました。



針金とドライフラワーテープとブローチピンで作るのが一番よかったので、それらで作製しました。私が想像する彼岸花は真っ赤なイメージだったので、強めの赤を使用しました。

花びらの形にそって布を切り、本物の花卉みたいにしたかったので、外側にいくにつれて、布の長さを調節していきました。

3-8



ヘッドドレスは、違和感があるボコボコした形にしました。遠くからでも分かるくらい大きなシルエットでタンポポをイメージしました。ピアスは、ヘッドドレスに合うように丸くて大きな形にしました。